

追悼 野見山暁治 野っ原との契約

練馬区立美術館（中村橋） 前期 2024. 10. 06～11. 10 後期 11. 12～12. 25



「野見山暁治」(1920～2023) は、練馬区に長くアトリエを構えた画家で、本展は当美術館のコレクションを中心に振り返る展覧会の開催である。

画伯は、子供の頃から「野っ原」のただなかで絵を描くことに喜びを感じていたとされているが、この「野っ原」とは「野見山」にとってはアトリエの原風景というべき場所で、また同時に「実のところ絵も風化しなくちゃいけない。それが「野っ原」との契約だ」とも述べている。

自然が体現する悠久の時間との対照において、ささやかな人間の営みとそのかけがえのなさを噛みしめて描き続ける生涯こそ、「野見山」が「野っ原」＝アトリエと取り結んだ契約であったといえるのかもしれない。



《自画像》1937年 《代官山風景》1950年頃 《シーナーの部屋》1957年頃
《海坊主誕生》1978年 《古びた衣裳》1974年 《ある日》1982年
《題不詳（絶筆）》2023年 展示作品は、前後期で展示替えあり。

作品は、絶筆を含む油彩画、ドローイング、版画、アトリエでの愛用品など「約80点」（前後期各40点の展示）に加え、インタビュー映像やアトリエの内部の記録映像などで、画伯の飽くなき芸術的探究の軌跡を辿るものである。